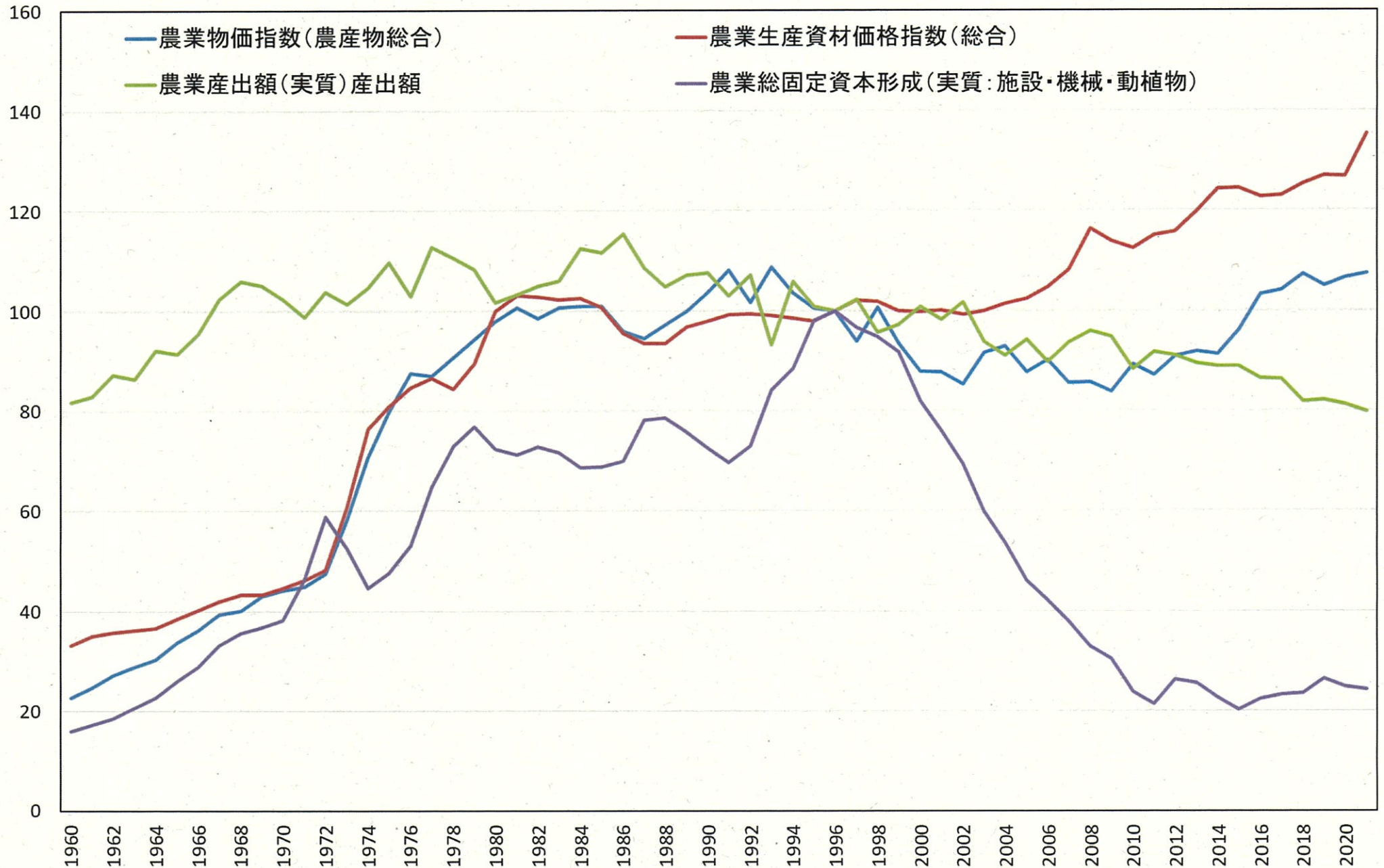


戦後農業・農政の70年

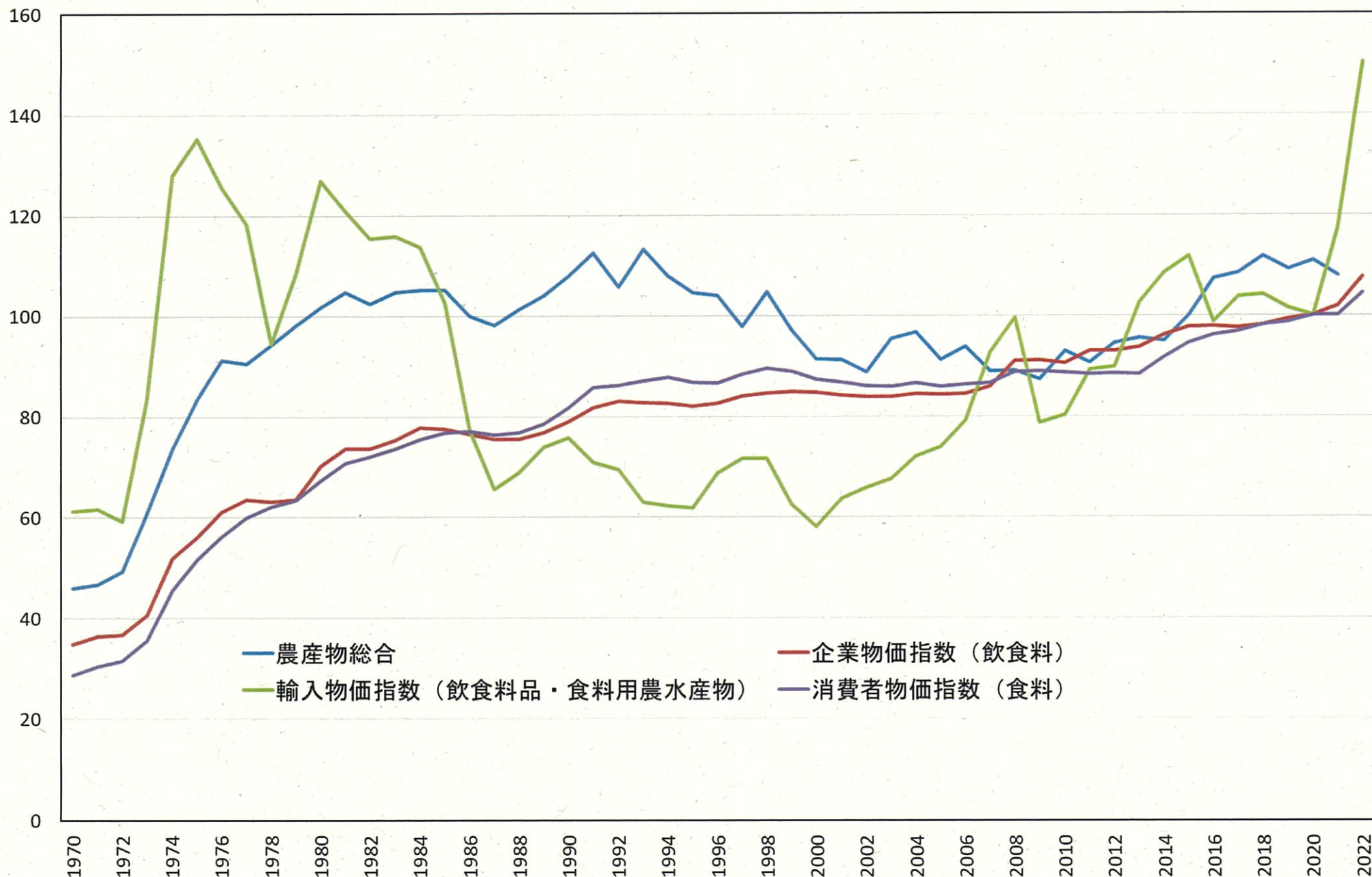
- 戦後復興(1945年)
 - 食糧増産/農業・農村システムの再編
- 経済発展 高度経済成長化(10年目:1955年頃) **マーケットの拡大**
 - 他産業との均衡/生産の選択的拡大
- ポスト経済発展 オイルショック後(30年目:1975年頃)
 - 消費の多様化/都市化/国際化(GATT)
- 成熟社会 バブル崩壊後(50年目:1995年頃) **マーケットの停滞**
 - グローバル化(WTO)/中山間地域対策/多面的機能
- 本格的な人口減少社会 (70年目:2015年頃) **マーケットの縮小**
 - 国内市場縮小/情報化/経済連携協定

農業生産活動と物価の推移



資料:農林水産省「生産農業所得統計」「農業物価統計」「農業・食料関連産業の経済計算」

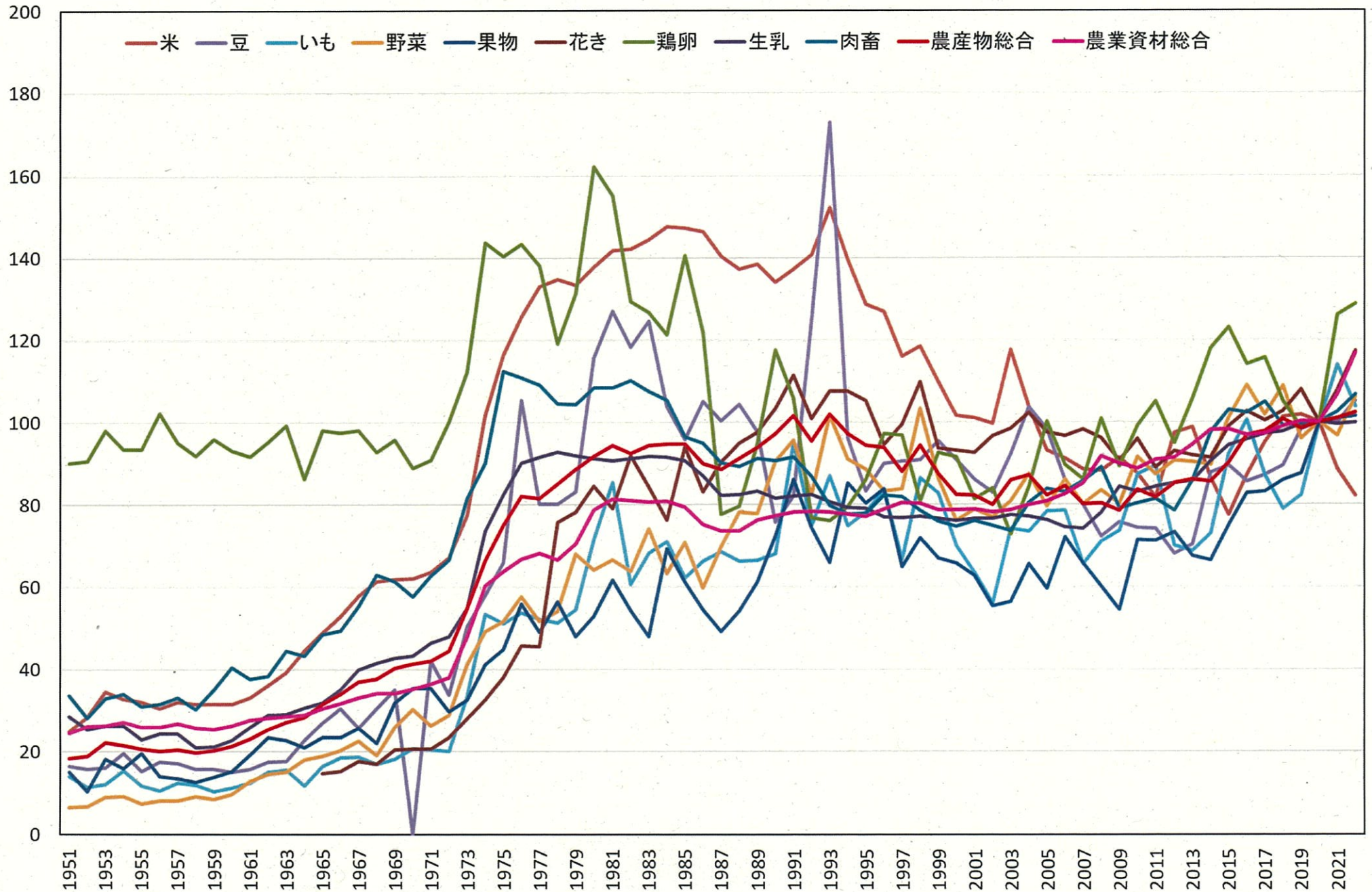
農産物・食料の価格動向



注: 農産物総合(2015年基準)、その他は2020年基準

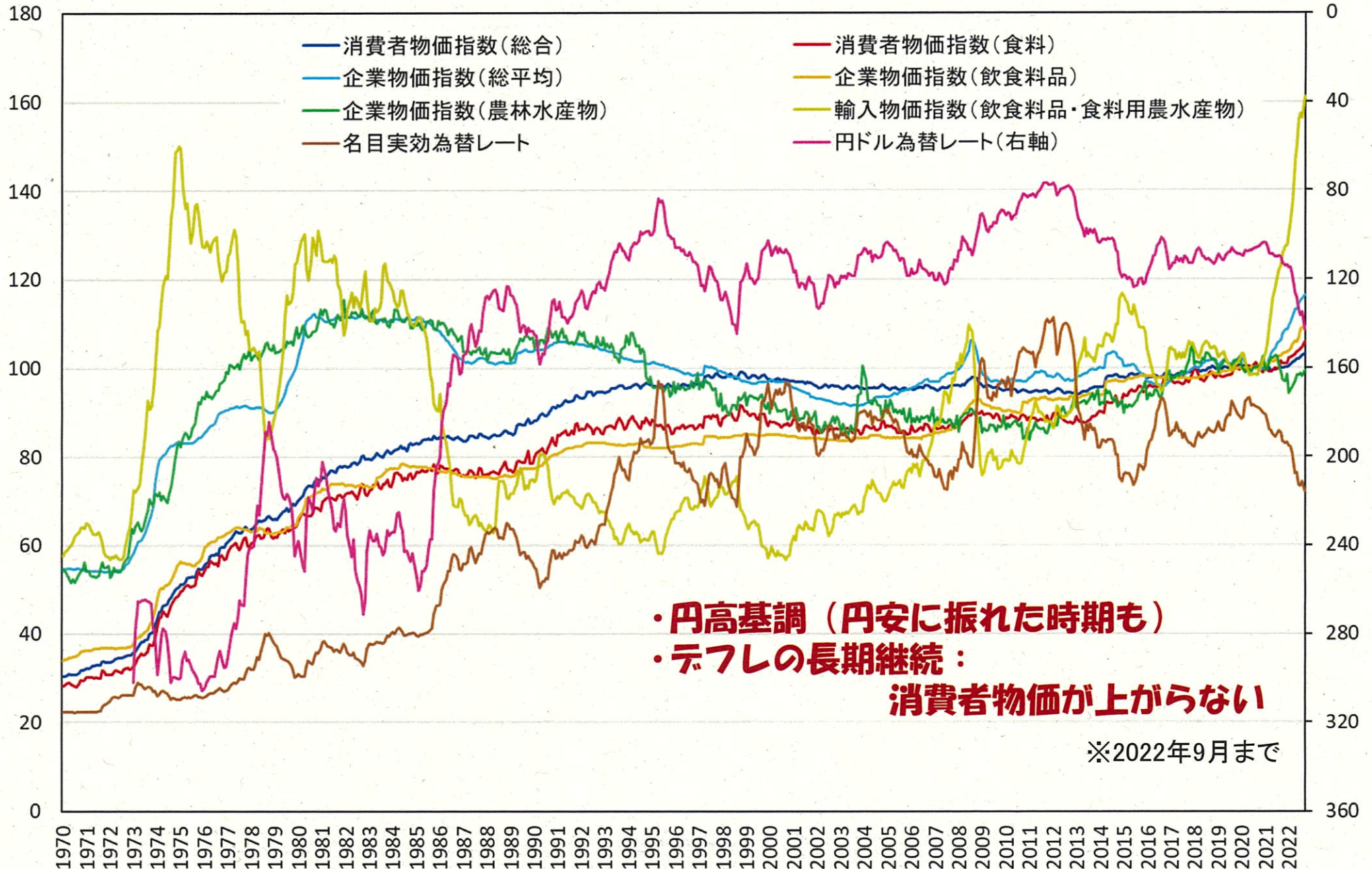
資料: 農林水産省「農業物価統計」、日本銀行「企業・輸入物価統計」、総務省「消費者物価指数」

農産物価格と農業資材価格



資料: 農林水産省「農業物価統計」 注: 指数は2020年基準

物価と為替

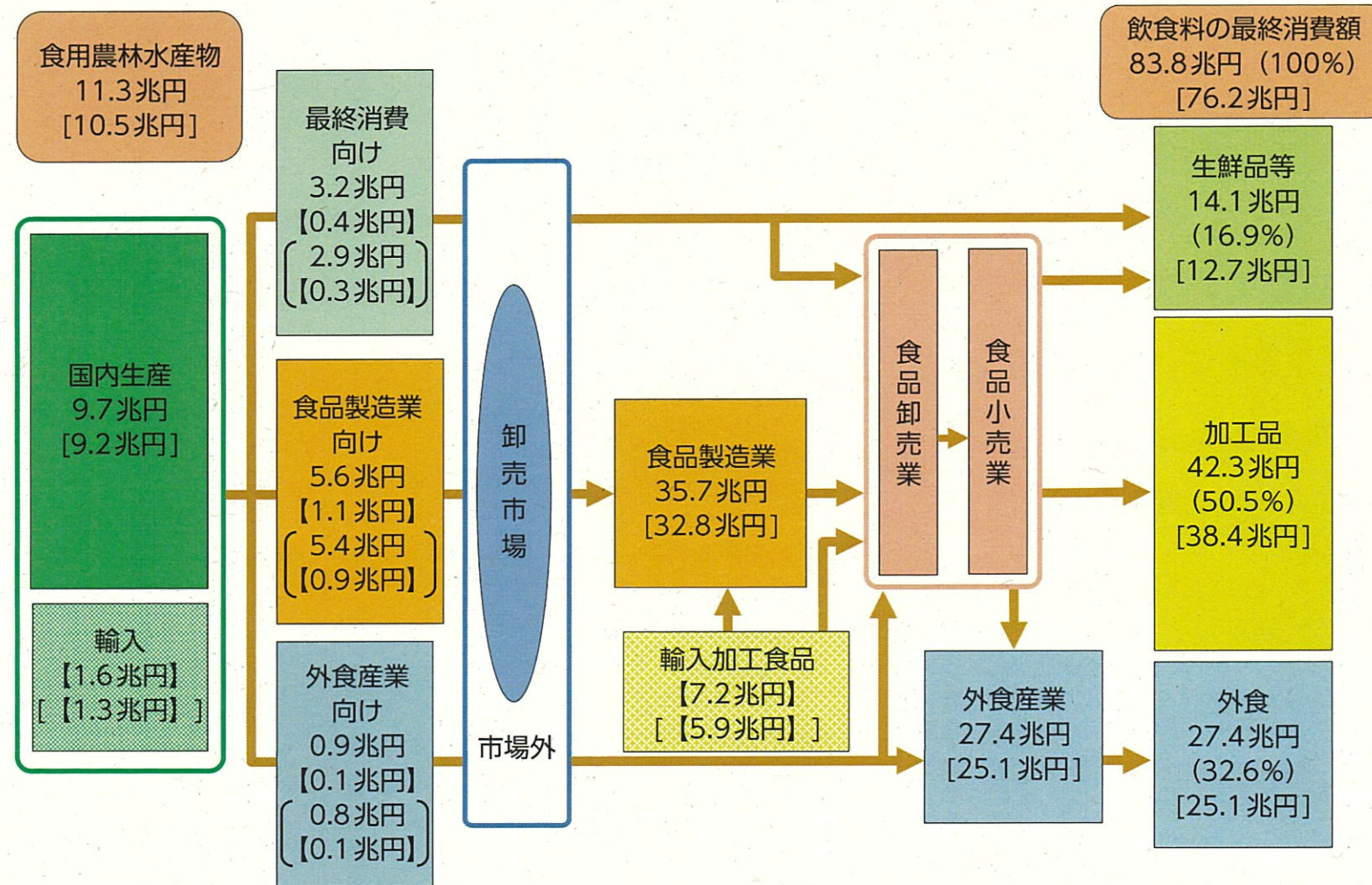


資料: 企業物価指数〔2015年基準〕・円ドル為替レート(日本銀行)、消費者物価指数〔2020年基準〕(総務省)

注: 円ドル為替レートは「東京市場 スポット 17時時点/月中平均」

5. 1990年代の食料消費の変容 ～20年間の停滞期？～

我が国の農林水産物の生産・流通・加工・消費の流れ (2015年)



資料：農林水産省「平成27年（2015年）農林漁業及び関連産業を中心とした産業連関表（飲食費のフローを含む。）」等を基に作成

注：1）総務省等10府省庁「産業連関表」を基に農林水産省作成

2）旅館・ホテル、病院、学校給食等での食事は「外食」に計上するのではなく、使用された食材費を最終消費額として、それぞれ「生鮮品等」及び「加工品」に計上している。

3）加工食品のうち、精穀（精米・精麦等）、食肉（各種肉類）及び冷凍魚介類は加工度が低いため、最終消費においては「生鮮品等」として取り扱っている。

4）【 】内は、輸入分の数値。[]内は、最新の「平成27年産業連関表」の概念等に合わせて再推計した平成23（2011）年の数値

5）市場外とは卸売市場を経由しない流通を指し、産地直送や契約栽培等の生産者と消費者・実需者との直接取引をいう。